

「振り回されるIT」から

「武器として活用するIT」へ

i SHARE

2026
01

新年あけまして
おめでとうございます！

本年も1年
何卒よろしくお願ひ申します

特集① : Canva Create 2025 「Your Creative OS」へ
進化したCanvaの全貌

特集② : Genspark Live 2025 AIワークスペース革命
『Just Prompt It』で仕事が変わる

インフィニティ：新スタッフ紹介&育休スタッフ復帰

インプルーブ：Zoho 年1回のイベント Zoholics 2025 レビュー



新年明けましておめでとうございます！2025年は皆さんにとってどのような年だったでしょうか。インフィニティは悩みの年でした。スタッフの入れ替わりが激しく、ベテランと新人とのスキル差が目立ち、お客様にはご迷惑をおかけしたかもしれません。大きく変化をしようとするタイミングでは、組織で様々なことが起こります。良いコトも悪いコトも、組織が発展していくための準備段階。スタッフと共に常に成長を意識しながら、2026年もお客様のサポートができるように前進していこうと思います。

私自身は、名古屋の異業種交流会「若鯢会」にて、久しぶりに本会役員の仕事が回ってきました。若鯢会も600人規模の若手経営者が集まる組織となり、本会役員を経験することで、社業に活かす経験ができるので、皆様に還元できるよう責任をもって努めていこうと思います。

さて、皆さんはAIを仕事で使いこなしていますでしょうか？前回の機関紙で「全社員がAIを活用し業務改善を進める」コンセプトを発表し、社内でも少しずつAIを業務に取り入れる準備を進めています。これから時代は、「AIを使うか？使わないか？」ではなく、「どのようにAIを使いこなすか？」の時代に突入しています。様々なサービスにAIが組み込まれ、知らず知らずのうちにAIを使っていると思いますが、自ら実践し取り入れていかないと使いこなすことはできません。AIを武器として使いこなすためには、自分自身で考え、的確な指示をすることができ、各AIサービスの特徴を知り、やりたいことができるツールを選択して使いこなしていくことが、今後のビジネスパーソンに求められるスキルではないでしょうか。

これはマニュアルの考え方によっています。マニュアルがあると、マニュアル以外のことができなくなるのではないかという議論が生まれます。しかしマニュアルを作つて成功している企業の多くは、マニュアルで大半の業務を迷いなく回し、時間を短縮し、生まれた時間を創造的（考えて行動する）業務の時間に割いています。AIも同じく、「AIを使うと考えなくなるのではないか」ではなく、AIを使って事務作業等の定型業務の時間を削減し、生まれた時間で自社にしかできないことに集中して、他社との差別化を図っていく必要があります。AIを使いこなしている企業も、最初は模索しながら、試して失敗して、知見をためながら実践していくことで、成功へと導いています。

昨年はAIエージェント元年。AIがユーザーの代わりに自律的にタスクを実行するAIエージェントが急速に実用化・普及した年でした。私もGenspark（ジェンスパーク）を利用して仕事のやり方が変わりました。作業をAIエージェントに振り、創造的な仕事に時間を使う。AIエージェントは段取りを理解して生成AIに指示を出し結果を返してくれる、いわば経験を積んだ中堅社員のような存在です。仕事を振るためには、結果のイメージとプロセスが分かっていないと指示を出すことはできません。結局、AIが普及したとしても、仕事を完結できるスキルがないと使いこなすことはできません。

今回の機関紙では、AIが関わる特集記事で皆さんに情報提供をしていきますので、一緒にAIを武器として使いこなして、ビジネスを発展させていきましょう。

株式会社インフィニティ/インブループ
代表取締役社長 大畠祐貴

皆さん、Canva（キャンバ）は利用していますか？Canvaは2013年に世界中のユーザーが自由にデザインを作成して公開することを目的とした、オンラインのデザイン公開ツールです。そのCanvaが2025年10月30日に実施した「Canva Keynote 2025」がイベントとしてもプレゼンとしても素晴らしいものだったので、情報共有をしたいと思います。

Canva Create 2025 -2025年10月30日



Canvaが「想像力の時代」の幕開けを宣言した「Canva Keynote 2025」。これは単なるアップデートではなく、Canvaが従来のビジュアルツールから、AIを中心とした「クリエイティブ・オペレーティングシステム」へと変貌を遂げた歴史的な発表でした。

イベント冒頭でCanva共同創業者の一人であるクリフ・オブレヒト氏がこんなことを言っていました。Canvaは2025年4月に「Canva Create」というアップデートイベントを実施後、「世界では新たに60億ものデザインが作成され、Canvaで作成されたデザインの総数は400億以上に達した。これは1秒あたり433ものデザインが作成されることになる」。世界中で多くのユーザーがデザインを身近に作成できる世界を実現したCanvaは、AI機能を含んだ大幅アップデートを発表することになります。



最大の注目は、AIがデザインの文脈を理解する独自の「Canvaデザインモデル」。プロンプト一つで編集可能なデザインを生成し、AIアシスタント「Ask Canva」が作業をサポートします。さらに、AI動画編集「Video 2.0」やビジネス向けマーケティング基盤「Canva Grow」も登場しました。

そして最大の衝撃は、買収したプロ向けツール「Affinity」の「完全無料化」という発表。これにより、Canvaは初心者からトッププロまで、あらゆるクリエイティブ活動のハブとなることを鮮明にしました。

次のページから詳しいアップデートを見ていきましょう。

Your Creative OS – 3つのレイヤーと9つの機能

今回の大幅アップデートを3つのレイヤー、それぞれに3つのアップデートを行い、合計9つの機能を提供する発表がされました。

①Visual Suite

すべてのクリエイティブ制作を担う表層レイヤー。

動画・インタラクティブ・ドキュメント・ホワイトボード・メールまで統合。

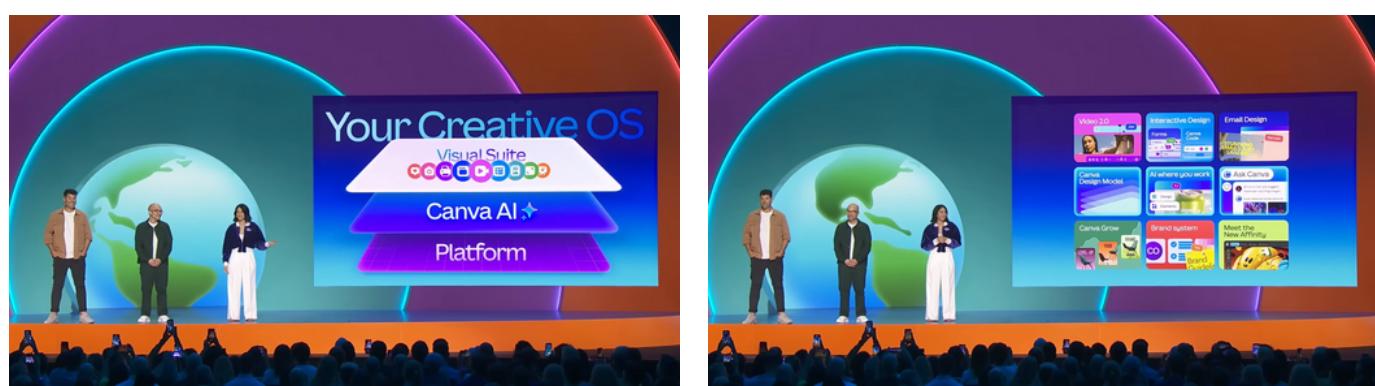
②Canva AI

すべての制作を支援するAI基盤。アイデア生成、デザイン整理、課題解決をAIでサポート。

③Platform

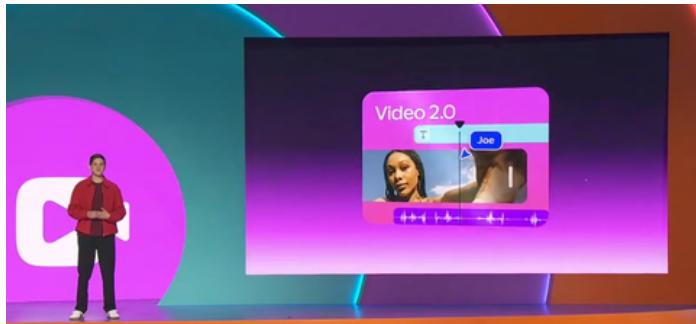
ブランド・チーム・プロダクション運用・拡張のベースとなる基盤。

目的は「非デザイナーでも創造力を発揮できる環境を作ること」。



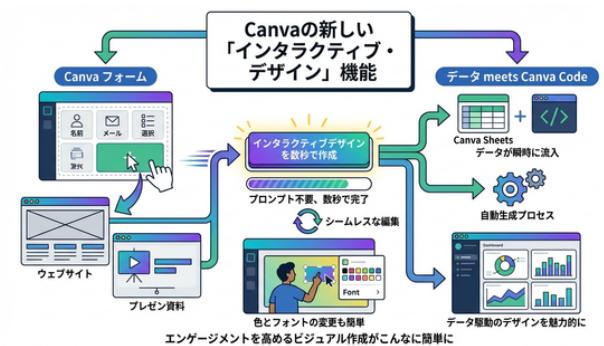
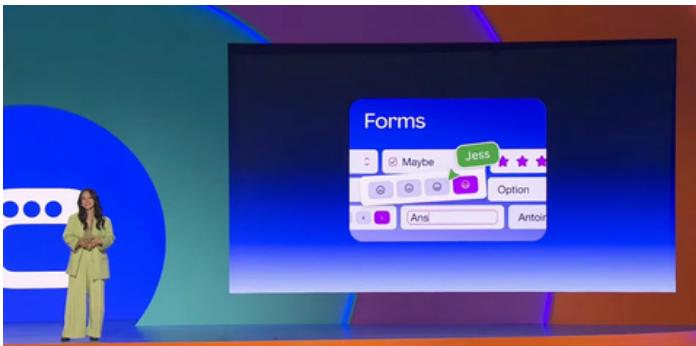
レイヤー	機能名	できること
Visual Suite 創造の最前線を担う3つの機能	① Video 2.0	タイムライン編集強化、字幕・音声制御、AI自動編集
	② Interactive Design	Webアプリ・フォーム・動く教材がデザイン感覚で作れる
	③ Email Design	HTMLメールをデザイン品質で作成・配信
Canva AI AIが制作と意思決定を支援	④ Canva Design Model	AIがデザイン改善、自動レイアウト提案
	⑤ AI where you work	日常ツール内でもCanva AIを利用
	⑥ Ask Canva	チャット形式で質問→解決・提案
Platform 成長ブランド プロの領域へ	⑦ Canva Grow	学習＆チーム成長支援プラットフォーム
	⑧ Brand System	ブランド整備、統一管理、テンプレ化
	⑨ Meet the New Affinity	プロレベルのベクター／写真編集を統合

① Video 2.0



これまで、動画制作には大きなジレンマがありました。簡単なツールでは会社のビジョンや想いを表現しきれず、かといってプロ向けのソフトは操作が複雑で、時間も費用もかかり過ぎる。多くの中小企業が「作りたいけど難しい」「外注すると高い」と悩んできたと思います。その課題を解決するために登場したのが「Video 2.0」です。これは、Canvaの使いやすさに、プロ仕様ツール並みの機能を融合させた全く新しい動画制作ツールです。AIに簡単な指示を入力するだけで、雰囲気に合った複数の動画案を自動生成してくれます。生成された素材は、カット編集、テキストの挿入、エフェクト設定など、感覚的な操作でそのまま編集できます。さらに、編集をよりスムーズにする新しいタイムライン機能が搭載され、ナレーション生成、キャプション、アニメーション、音量調整など、動画制作に必要な機能がすべて標準で揃っています。これにより、専門知識がなくても短時間で“伝わる動画”を作れるようになります。もう外注に高い費用を払ったり、難しいソフトを学ぶ必要はありません。営業、採用、ブランディング、社内共有など、さまざまな場面で活用でき、会社の魅力をより強力に発信することができます。「動画で会社の価値をもっと伝えたい」「採用力や営業力を高めたい」そんな経営者にとって、非常に心強い武器になるはずです。

② Interactive Design

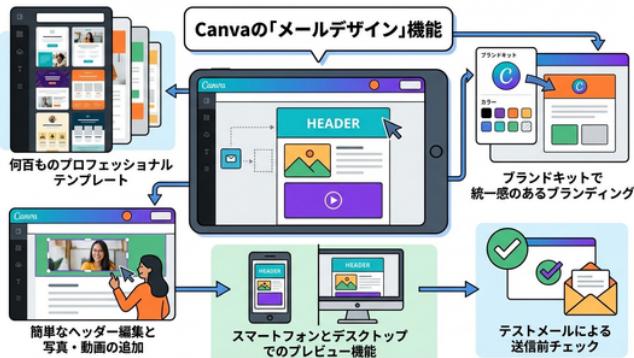


今年の初めにマルチページ機能が追加されたCanvaのWebサイトに、新しく「Canva Forms」というインタラクティブな体験を可能にする機能が登場しました。これは、ただ回答を集めるためのフォームではなく、ブランド体験の一部として活用できるツールです。フォームはドラッグ＆ドロップだけでWebサイトやプレゼン資料に直接埋め込むことができ、外部アプリの連携は不要。すべてCanva内で完結します。さらに、集めたデータは自動で「Canva Sheets」に流れ込み、即座に分析して次のアクションにつなげられるようになります。これによって、アンケート、顧客ヒアリング、イベント申し込み、資料請求など、さまざまな業務が効率化されます。そして、この流れをさらに進化させる仕組みとして「Data meets Canva Code」が誕生しました。データとクリエイティブがこれまで以上に融合し、データの収集・保存・表示までがCanva内のアプリとして一元管理できるようになります。「Canva Code」に指示を伝えるだけで、数秒でインタラクティブなデザインを自動生成してくれます。ユーザーの反応データはすべて自動で「Canva Sheets」に送られ、詳細な分析が可能です。作成したデザインは、再びプロンプトを打ち直さなくとも編集画面で色やフォントを変更でき、そのままワンクリックでWebサイトとして公開できます。専門的なスキルや外部ツールに頼らず、データを活用した双方向型のデザインやマーケティング施策を誰もが簡単に作れるようになる、大きなチャンスが広がっています。

特集① : Canva Create 2025 - 「Your Creative OS」へ進化したCanvaの全貌

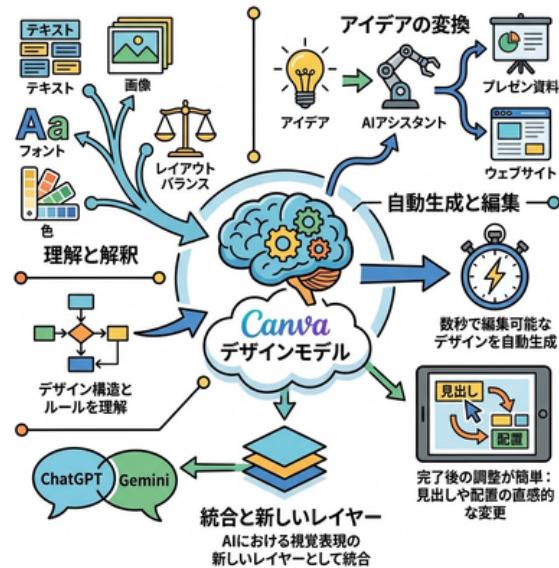
Special Feature

③Email Design



「Email Design」の最大の魅力は、数百種類のプロ仕様テンプレートを自由に使えることです。デザインの知識がなくても、魅力的なメールをすぐに作成できます。さらに、ヘッダーの編集や、写真・動画をコンテンツライブラリから追加することも簡単にできます。また、ブランドキットを適用すれば、自社のロゴやカラーが自動で反映され、ブランドの一貫性を保ったメール配信が可能になります。加えて、スマートフォンとパソコン版の両方でプレビューできるほか、テストメール送信で事前チェックもできるため、安心してメールキャンペーンを展開できます。

④Canva Design Model

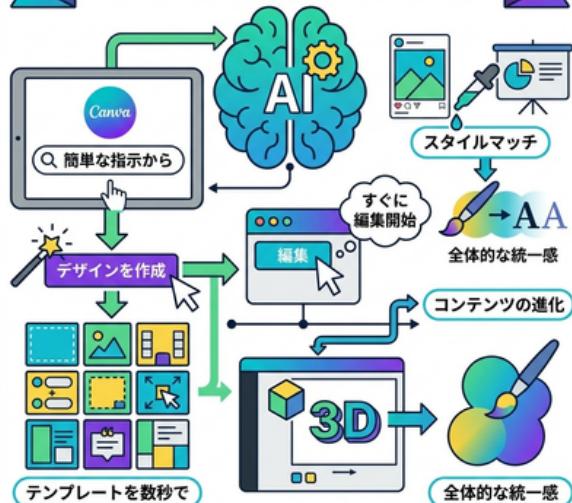


「Canva Design Model」は、デザインの構造や法則を理解する初めてのAIモデルです。テキスト、画像、フォント、色、レイアウトのバランスを読み取り、数秒で編集可能なCanvaデザインを自動生成します。完成後の微調整も簡単で、見出しや配置変更なども直感的に行えます。このモデルにより、プレゼン資料からWebサイトまで、あらゆるアイデアを形にするプロセスをAIがサポートします。ChatGPTやGeminiにも統合されており、「Canva Design Model」はAIにビジュアル表現を与える新しいレイヤーとして進化しています。

⑤AI where you work

現在、Canvaでは年間で10億回以上の検索が行われていますが、そこから理想のテンプレートや写真、イラストを見つけるのは簡単ではありません。もし「Canva Design Model」を活用して、ユーザーのイメージをそのまま検索結果に反映できたら——その答えが「AI where you work」です。Canvaのツール内にAIを組み込み、簡単な指示文から完全に編集可能なデザインを即座に生成できるようになりました。テンプレートを数秒で作成し、そのままデザインタブから編集を開始できるため、作業の流れが非常にスムーズになります。さらに、コンテンツ生成も進化し、素材タブからAIで思い描いた要素を自由に作成できます。3D要素の生成・追加にも対応し、より豊かな表現が可能です。

AIがあなたの仕事場に: Canvaの革新



また、新機能「スタイルマッチ」により、ある要素のデザインスタイルをワンクリックで他の素材にも適用でき、全体の統一感を簡単に保てます。デザイン制作がさらに速く、直感的になりました。

⑥Ask Canva



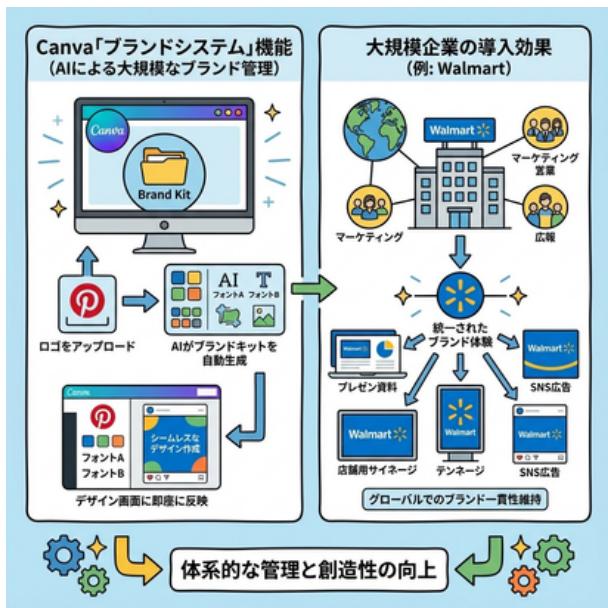
デザイン作業では、フォント選びやレイアウト調整に迷うことがあります。そんな悩みを解消する新しいパートナーとして登場したのが「Ask Canva」です。「Ask Canva」は、どんな質問にも答えてくれるデザインコラボレーターのような存在で、Canva AIが作業中の画面を理解し、今作っているデザインに最適化されたアドバイスをしてくれます。見出しの表現方法、レイアウトのバランス、色の選び方など、幅広い提案を受けられ、まるで会話をするようにデザインを改善できます。コメントで質問すると、そのままAIがデザインを調整してくれるなど、双方向のやり取りが可能になります。今回発表された「Canva Design Model」「AI where you work」、そして「Ask Canva」が組み合わさることで、Canvaは直感的で高度なデザイン体験を実現するクリエイティブOSへと進化しました。

⑦Canva Grow

「Canva Grow」を使えば、マーケティング活動をすべてCanva内で完結できます。自社のWebサイトをスキャンしてブランドを理解し、その情報をもとにインパクトのある広告を自動で作成してくれます。作成した広告は、ダウンロードやアップロードの手間なく、そのままMetaなどのプラットフォームへ直接掲載できます。さらに、AIが広告のパフォーマンス分析や改善案を提案してくれるため、企画から制作、公開、分析までの流れがスムーズになります。この機能は全ユーザーが利用できますが、より高度なニーズに対応するために「Canva ビジネスプラン」も用意されています。スピードと成果を求める企業にとって、非常に強力な選択肢となります。

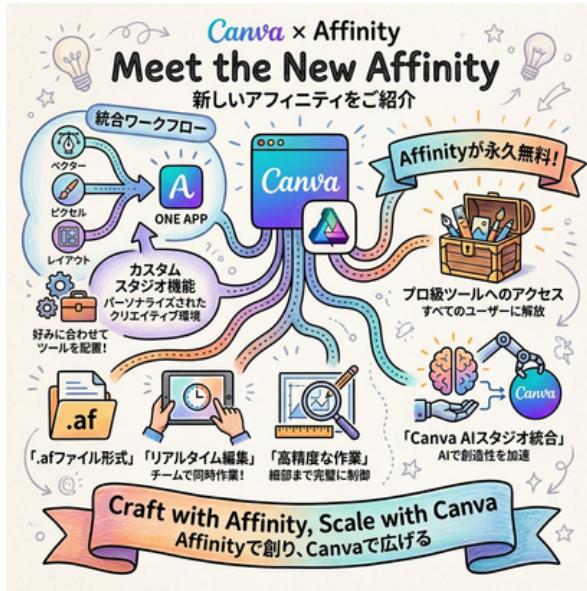


⑧Brand System



組織が大きくなるほど、多くの関係者がブランドに関わるため、その一貫性を保つことは大きな課題になります。チェックや修正に時間を取りると、創造的な仕事が進まなくなることも少なくありません。Canvaは、ブランドマネジメントとは「管理することではなく、自信を持って任せられる状態をつくること」だと考えています。誰でも簡単にブランドに沿ったデザインが作れる環境こそが理想です。そのため登場したのが「Brand System」です。これは、ブランドを大規模に管理できる強力な仕組みで、AIによりさらにパワフルになりました。例えばPinterestでは、ロゴを追加するだけでフォントやカラー、ガイドラインまで含むブランドキットが自動生成されます。整理されたブランドガイドラインはデザイン画面から直接確認でき、AIがブランドを理解して、作成中のデザインに自動でフォントや色を反映してくれます。すでにWalmartをはじめとする数千人規模の企業が活用しており、全社でブランドの一貫性を保ちながら、スピードと創造性を最大限に引き出しています。

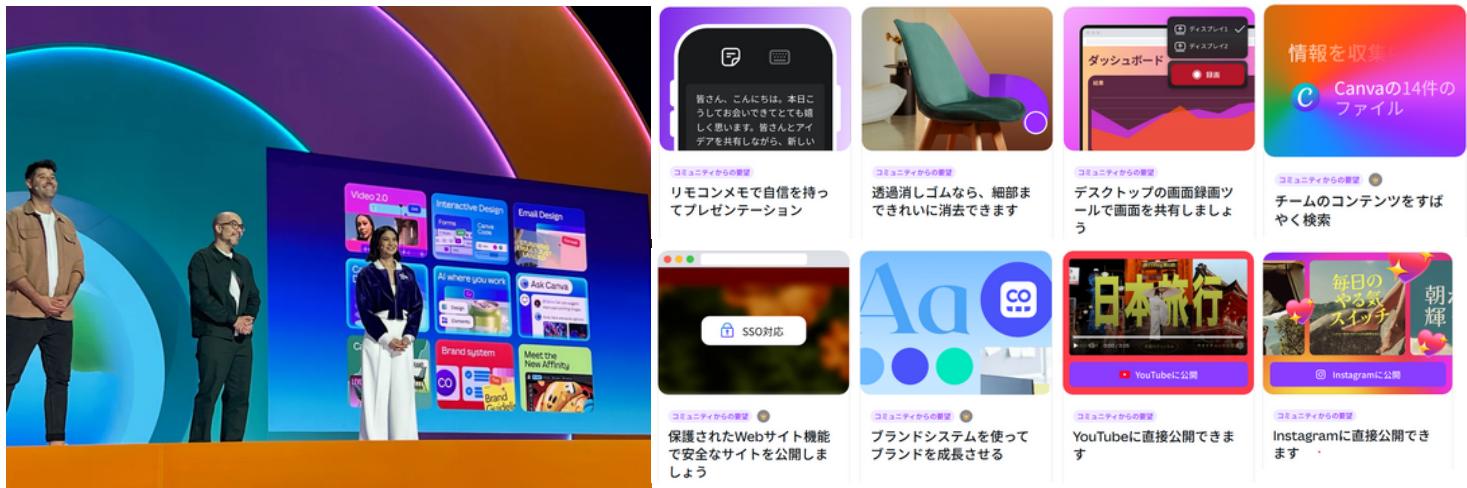
⑨Meet the New Affinity



Canvaは、プロデザイナーが求める高度なテクニカルツールを提供するため、昨年プロ向けデザインツール「Affinity」を仲間に迎えました。Affinityは15年かけて開発され、すでに500万人以上のクリエイターに利用されているプロフェッショナル向けツールです。これまでプロデザイナーには選択肢が少なく、複数のアプリを切り替えながら作業するのが当たり前でしたが、ついにすべてのクリエイティビティを解放する時が来ました。今回発表された「Meet the New Affinity」では、ベクター、ピクセル、レイアウトの3つのワークフローが1つのアプリに統合され、アプリの切り替えが不要になります。カスタムスタジオ機能により、自分専用のクリエイティブ環境を自由に構築できるようになりました。また、ファイル形式は「.af」に一本化され、巨大なデータでもリアルタイム編集が可能で、100万%以上の拡大にも耐えられる圧倒的な精度を実現しています。

さらに、最大のニュースとして、Affinityは永久に無料で利用できると発表されました。「クリエイティビティは贅沢品ではなく、権利」という理念のもと、すべての企業がプロレベルの制作環境にアクセスできる時代が始まります。加えて、Affinity内にCanva AIスタジオが設置され、Canva有料アカウントがあれば全機能が利用可能です。制作物をAI学習に使用しないことが明言され、著作権保護も徹底されています。

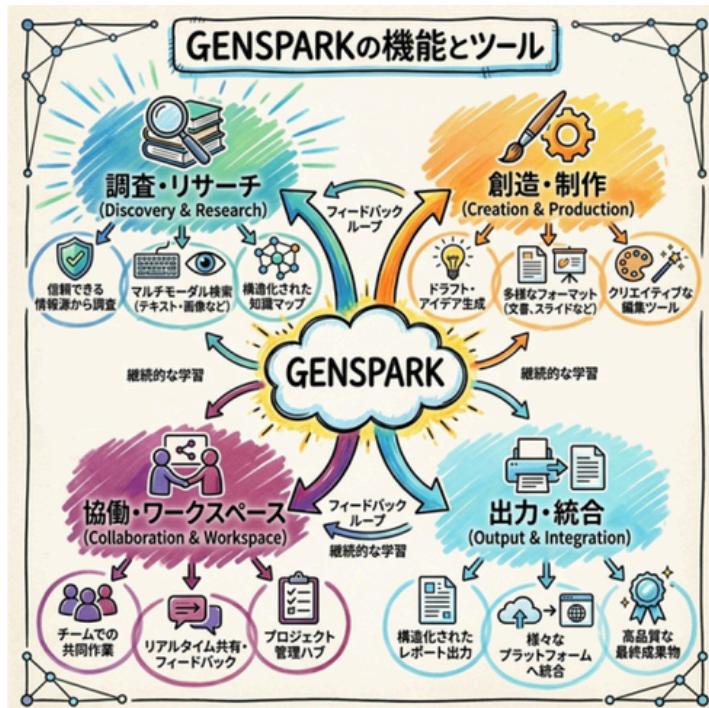
「Affinityでクラフトし、Canvaでスケールする」その未来が、いよいよ実現します！



さらにCanvaは、ユーザーからの要望を積極的に聞いて機能改善＆追加を行っています。まさにマーケティングの最前線の戦略を取っている企業です。

いかがでしたでしょうか？魅力的な機能を利用することはもちろん、マーケティング面でもプレゼン面でも久しぶりにワクワクするイベントで、一気見してしまいました。戦略的にAIをサービスに組み込んでいることはもちろん、ユーザーが望むサービスを提供し、Adobeを脅かすAffinityを無料で提供するインパクト、それによる利用者増加に繋げる道筋、私たちが学んで取り入れるポイントもあるのではないかと思います。ぜひ、最新のツールに触れる機会を作っていただければ幸いです。

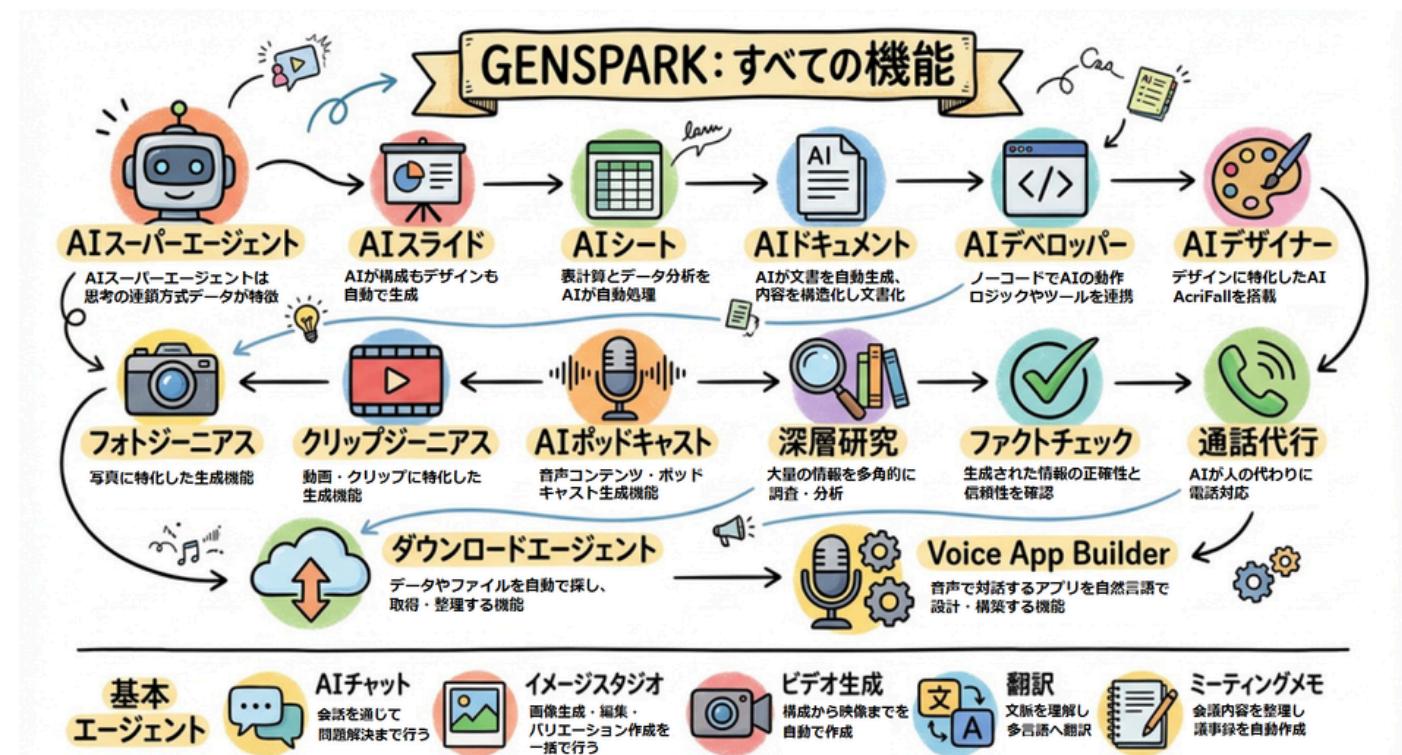
さて、AIエージェントのGenspark（ジェンスパーク）も大幅アップデートが紹介されました。プレゼン自体は地味でしたが、機能は本当に魅力的！弊社でも各チームに有料アカウントを配布し、全社的に利用するテストを始めています。今回はこのアップデートをご紹介していきます。



Gensparkは、「GENSPARK」を中心とした5つの機能領域で構成されています。

- 調査・リサーチ (Discovery & Research)**: 信頼できる情報源から調査、マルチモーダル検索（テキスト・画像など）、構造化された知識マップ。
- 創造・制作 (Creation & Production)**: フィードバックループ、ドラフト・アイデア生成、多様なフォーマット（文書、スライドなど）、クリエイティブな編集ツール。
- 協働・ワークスペース (Collaboration & Workspace)**: チームでの共同作業、リアルタイム共有・フィードバック、プロジェクト管理ハブ。
- 出力・統合 (Output & Integration)**: 構造化されたレポート出力、様々なプラットフォームへ統合、高品質な最終成果物。
- GENSPARK**: 中心となるAIエンジン。

各機能は、フィードバックループを通じて連携し、継続的な学習によりパフォーマンスを向上させます。



AIスーパーエージェントが、指示された内容を実現するために、必要なタスクを考え、必要なAIに順番に指示をし、返ってきた結果を組み合わせて、最終的に指示された仕様やデータを作り上げてくれます。メールやカレンダーと接続する機能があるので、メールの返信作成や送信、カレンダーの空き時間確認や予定を入れることも含めて、アシスタント的に機能してくれるのが、AIエージェントのGensparkです。

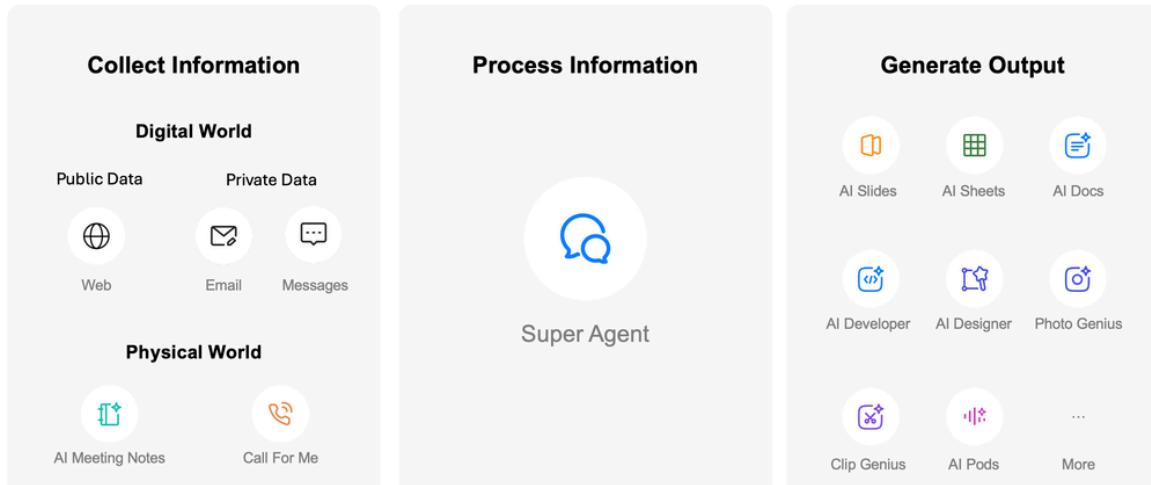
特集②：Genspark Live 2025 - AI革命『Just Prompt It』で仕事が変わる

Special Feature

2025年11月に新たなコンセプト「Genspark AI Workspace：自律的に仕事が完了する場所」を発表しました。それに伴う4つの新機能を発表しています。



Genspark AI Workspace



★情報収集：高品質な入力

優れた仕事は適切なデータから。Gensparkはあらゆる場所から情報を収集します
—ウェブ検索、メールやメッセージ、会議の議事録、電話通話。

★情報処理：Super Agent

GensparkのSuper Agentは、Mixture-of-Agentsシステムを通じて30以上のAIモデルを統制。
各タスクに適したAIモデルにデータを渡し、複雑さをバックグラウンドで処理します。

★アウトプット生成：直接仕事のアウトプットまで

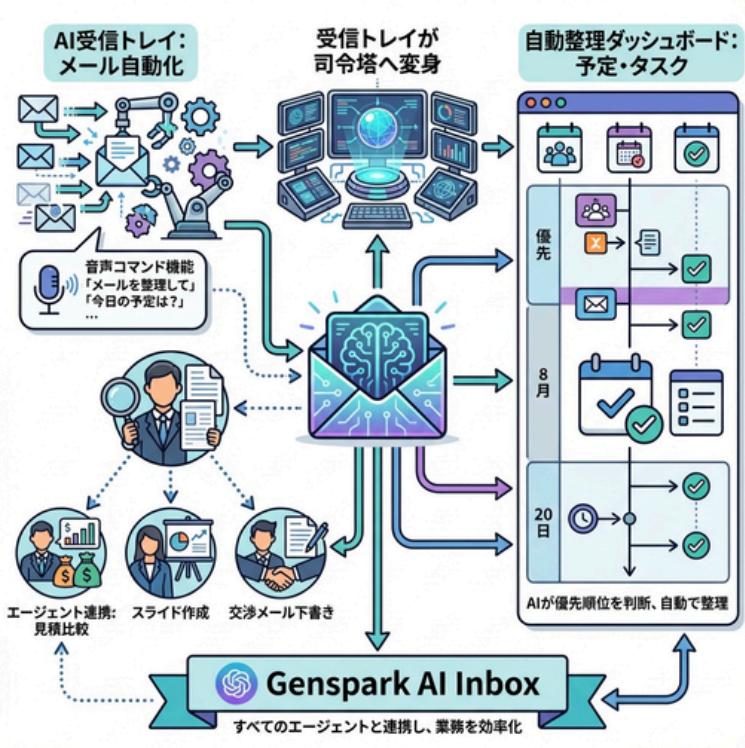
Gensparkを利用すれば定型業務をスキップできます。複数回対話をする必要はありません。
コピー&ペーストも不要。完成したアウトプット—AI Slides、AI Sheets、AI Docs—を直接編集し、
シンプルな指示で改良できます。

この3つの大きな機能を利用して、AIワークスペースを実現しています。

特集②：Genspark Live 2025 - AI革命『Just Prompt It』で仕事が変わる

Special Feature

オールインワン「AI Workspace」は、仕事を自動操縦するプラットフォーム。意図を伝えれば、完成した仕事が返ってきます（役員会のプレゼンテーションから財務モデル、フルスタックアプリまで）数回のプロンプトをひとつのアプリで仕事が完了する。仕事が自律的に完了する場所を提供します。

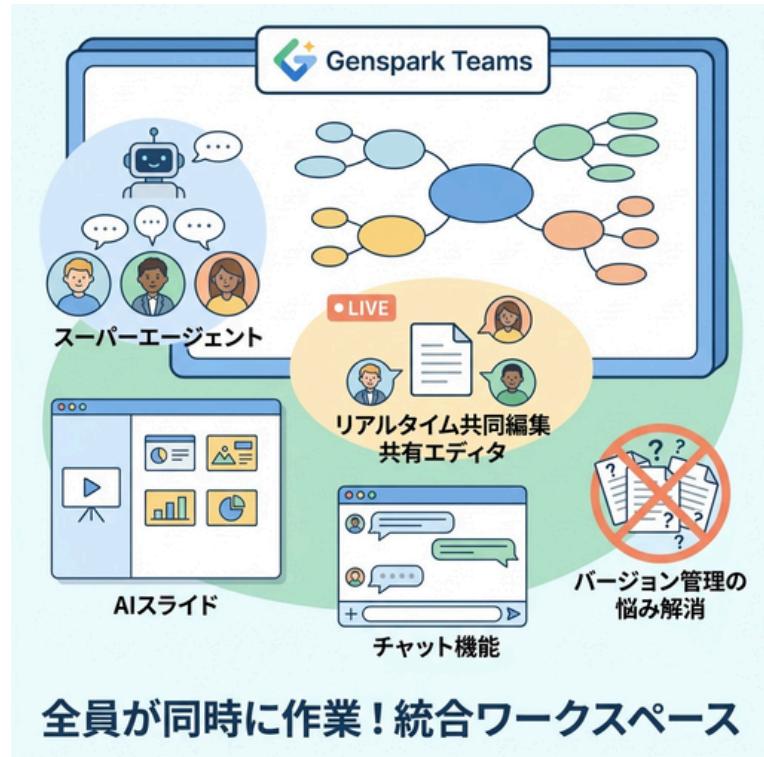


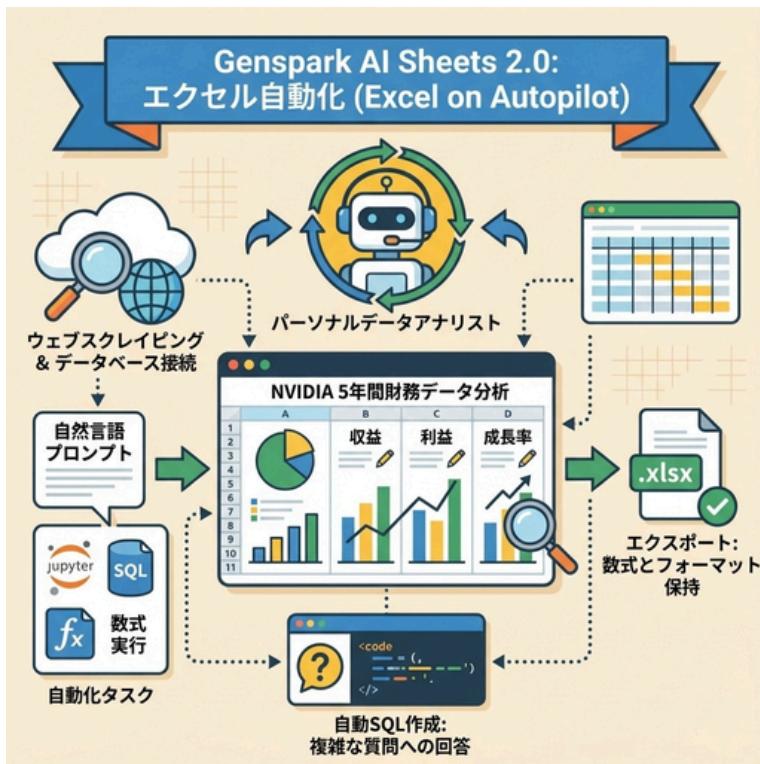
Genspark AI Inbox

メールをAIがコントロールする機能。
メールをすべてのGensparkエージェントと接続します。
ベンダーの見積を比較したり、
スライド作成、交渉メールの下書き、
すべてを音声コマンドで実現可能に。
タイムラインとタスクを自動整理する日次
ダッシュボードのスケジュール設定により、
受信ボックスをコマンドセンターに変えます。

Genspark Teams

一緒に仕事をし、より早く結果に繋げる。
Teams機能により、チームはAI Slidesと
Super Agent内でリアルタイムコラボレーション
ができます。
同じワークスペース内でチームメイト&AIと
チャットができます。
もう「final_final_v3」の悪夢や
スクリーンショットで「どのバージョン?」と
聞く必要はなくなります
全員が同時に作業する統一された
ワークスペースが提供されます。





Genspark AI Sheets 2.0

ExcelをAIが自動操縦。

あなた専用のデータアナリストが、ウェブスクレイピングからデータベース接続まで処理し、自然言語プロンプトからJupyter、SQL、数式、可視化を自動実行します。

ひとつのプロンプトでNVIDIAの5年間の財務を編集・分析したり、複雑な質問に答えるSQLを自動記述したりできます。

その後、数式と書式をそのまま保持して.xlsxにエクスポートできます。

Genspark Enterprise

自律的な作業のためのインフラストラクチャ。30以上のAIモデルを我々のMixture-of-Agentsシステムでタスクを最適なモデルにルーティング。150以上の統合ツールがあらゆるビジネス機能をカバー。

20以上のプレミアムデータセットでより豊富で正確にアウトプットし、自律実行でチャットボットの応答ではなく完成した仕事を提供します。さらにエンタープライズグレードセキュリティによって、データセキュリティを優先します。

ゼロトレーニングポリシー

- データで学習することはありません。

ゼロデータ保持

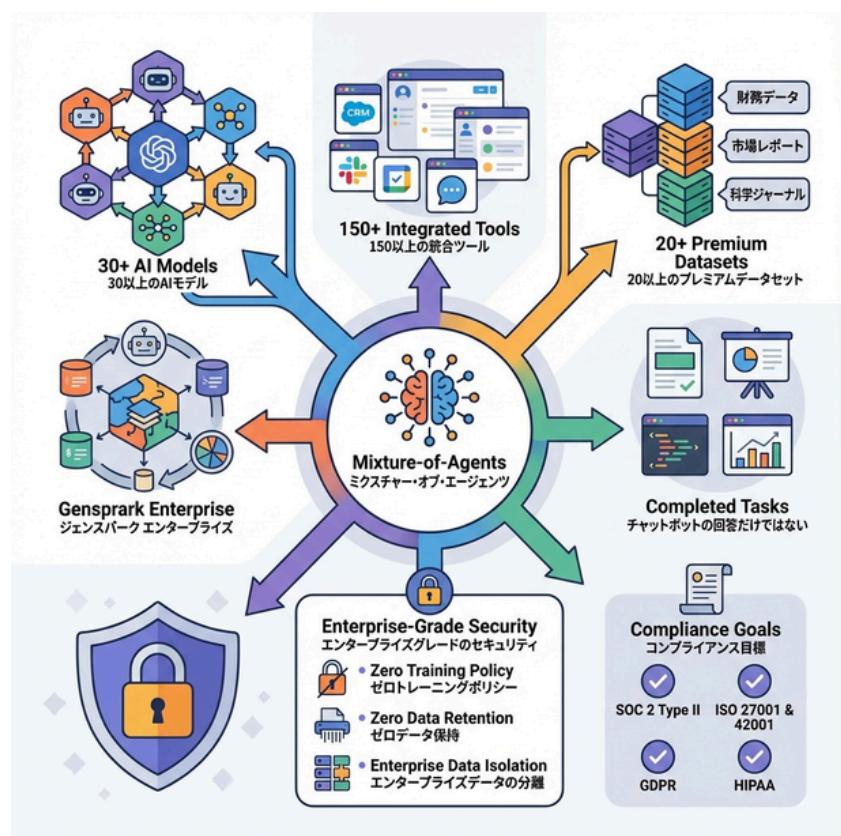
- 情報はあなただけのもの。

エンタープライズデータ隔離

- 各クライアントの完全なインフラストラクチャ分離

必要なコンプライアンス

- SOC 2 Type II (2025年目標)
- ISO 27001 & 42001 (2025年目標)
- GDPRコンプライアンス (2026年ロードマップ)
- HIPAA (2026年ロードマップ)





Genspark Series B Funding

評価額12.5億ドルでの2億7500万ドルのシリーズB資金調達達成を発表しました。Gensparkはわずか20ヶ月でユニコーン企業になりましたことになります。

この資金調達ラウンドは、Salesforce、Zoom、Boxを支援するシリコンバレーの主要企業、Emergence Capital、SBI Investment、LG Technology Ventures、Pavilion Capital、UpHonest Capitalに支援されています。既存投資家は全員倍額の投資を行いました。

いかがでしょうか？毎月2回ほど新しい機能が追加されていたGenSparkですが、その機能がまとまって、大きなコンセプトになり、AIエージェントの一つの完成形を見せてくれた発表でした。

弊社にもAI活用の相談が増えてきました。多くは生成AIの使い方や選び方の相談になりますが、AIはあくまで道具。その道具を使いこなすための相棒としてAIエージェント：Gensparkは大きな力になってくれるのではないでしょうか？

AIエージェントを活用することで、

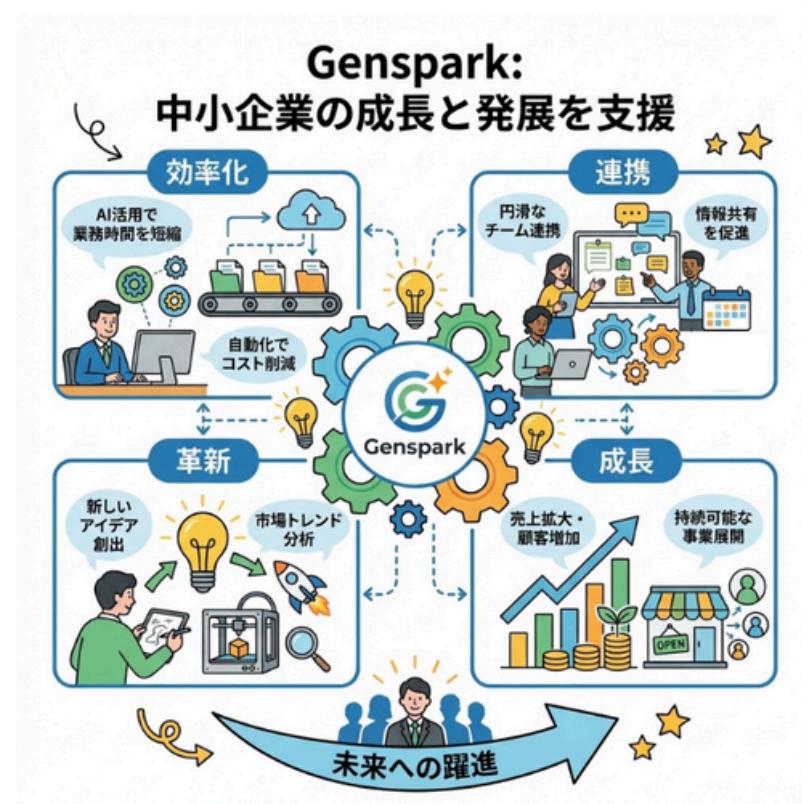
- ・ 仕事の効率化
- ・ チームの連携
- ・ アイデア/マーケティングの革新
- ・ 売上増加に繋がる成長

を素早く実現していくことができます。

人手不足が今後顕著になっていく時代に、AIエージェントを相棒にすることが解決策になる可能性があります。

今やっている仕事のやり方に固執せず、改善していく意識をもってAIを使っていくと、必ず役に立ちます。

皆さんのAIエージェントの活用方法や、うまくいったコトをインフィニティにも共有していただけると嬉しいです！一緒にAIエージェントを相棒にしていきましょう！私たちという相棒がいることもお忘れなく！



新スタッフ紹介：谷田 恵子（タニタ レイコ）

2025年10月からインフィニティに新しいスタッフが加わりました。前職ではIT以外の分野で営業経験を積み、未経験でIT業界へのチャレンジです。未経験ながらも、吸収力の高さと丁寧な仕事ぶりで、積極的に研修に取り組んでいます。今後、サポートのお電話や、お客様先に訪問しての構築作業でお会いする機会が増えると思いますので、その際は何卒よろしくお願ひします！



谷田恵子（タニタ レイコ）です、よろしくお願ひします！
前職では営業を経験し、お客様との関係構築に努めておりました。
今後は利用者側であったITに関する知識をしっかりと習得し、
未経験だからこそ、お客様の立場に立って、わかりやすい説明を心掛け、
お客様のサポートができるように頑張っていきたいと思います。
よろしくお願ひします！

採用担当の大岡立弥（オオオカ タツヤ）です。

今回の採用時のポイントは、

- ・将来的にITの仕事がしたい意欲が強かった
- ・面接前の事前準備がしっかりできていた
- ・コミュニケーション能力があると感じた
- ・笑顔と受け答えがしっかりしていた

の4点でした。

しっかりとお客様と向き合ってサポートできるスタッフですので、
今後ともぜひよろしくお願ひします！



育休スタッフ復帰：深谷 知里（フカヤ チサト）

2025年12月に約2年産休＆育休に入っていた深谷知里（フカヤ チサト）が復帰しました！スタッフが戻ってくれるのは嬉しいです！子育てと両立しながらなので、しばらくは時短＆出社とテレワークを組み合わせての復帰となります。今後はお客様のところへ定期的に訪問し、ご要望をお聞きしながら、より使いやすい環境を提案していく役割を担います。徐々に皆様の前に現れますので、その際はぜひよろしくお願ひします！



皆様ご無沙汰しております、深谷知里（フカヤ チサト）です。
ながらく産休/育休を取得しておりましたが、やっと復帰ができました。
皆さんに会えるのをずっと楽しみにしていたので、これから積極的にご挨拶にお伺いします。普段は言いにくいことや、ご要望、皆さんの困っていることや、お仕事のお話など、お話することが好きなので、いろいろお話をしただけると嬉しいです！改めてよろしくお願ひします！



2025年の年末、Zoho は One のメニュー体系を大幅刷新し、より直感的でシームレスに使えるようアップデートを行いました！

今回のリニューアルは単なるインターフェースの変更じゃなく、「会社全体を一つの仕組みとして動かす」ための大きな進化。中小企業でも無理なく DX を進められる設計になっているのが大きな特徴です。

1. メニューが「業務軸」に再構築され、迷子にならない設計に

旧Oneはアプリの数が多くて、初めて触る人には「何をどこから触ればいいの？」ってなりがちでした。今回のアップデートでメニューが業務カテゴリに整理されたので、アプリ名を覚えなくても、「やりたい業務」から迷わずたどり着けるようになりました！

2. ダッシュボードが「会社の司令塔」に進化

トップ画面がガラッと変わって、会社の状況を一瞬で把握できるホームダッシュボードが追加されました。このおかげで「CRM 開いて…次に Projects 見て…」みたいな動線が大幅に短縮されます。社長やマネージャーに特にうれしい機能ですね。

3. One 全体に横断検索が追加され「探す時間ゼロ」へ

ようやく実装されたのが、One 全体をまたいだ横断検索。CRM の顧客名でも、Projects のタスクでも、Mail のメールでも、ひとつの検索窓で一気に探せるようになりました。Google Workspace のような使いやすさを Zoho でも体感できるようになって、「あの資料どこにある問題」が解消されやすくなっています。

4. アプリ間の連携がさらに自動化しやすくなった

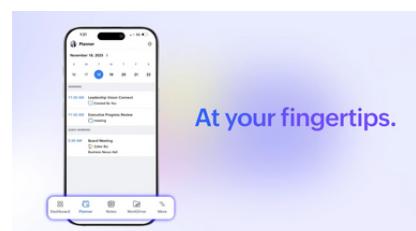
Blueprint（業務フローの自動化）や Flow（アプリ間連携）が強化され、ノーコードでできる範囲が拡大。例：見込み客→商談→請求→入金→レポート

これを人の手を挟まずに流れるように構築できます。とにかく、自動化のハードルが一段下がった感じです。

5. 画面デザインが刷新され、スマホ・タブレット最適化が進行

今回のアップデートでUIがかなりモダンに。

特にスマホ・タブレットでの操作性が大幅改善されたため、現場系の会社でも使いやすくなっています。





Let's TRY

ちょっと役に立つ Windowsの機能

Windowsには、あまり知られていない便利な機能がいくつもあります。新たに入手することなく、ちょっと設定するだけで作業の手間やストレスをぐっと減らすことができます。そんな機能から今回は2つご紹介します。

■ 「付箋」アプリ

ちょっとしたToDoやメモをパソコン画面に貼っておきたい！というときに便利なのが「付箋」アプリです。以前はアプリを入手する必要がありましたが、Windows10から標準で搭載されています。

デスクトップ上に、紙の付箋のようにメモを貼り付け、色分け（7色あり）して整理でき、写真などの画像を貼り付けることもできます！



<「付箋」アプリの開き方>

- [スタート]ボタン横の検索窓で「付箋」と検索
- 検索結果に表示される「付箋」アプリをクリック

■ 「ウィンドウのシェイク」機能

ちょっと面白い機能で、画面がウィンドウだらけで集中できない…というときに便利です。

使用中のウィンドウのタイトルバーを掴んでマウスで振ると、それ以外のすべてのウィンドウが最小化されます。文字では伝わりにくいので…よかつたら一度やってみてください。やってみると結構クセになるかも（笑）

Windows 11の場合、この機能は既定でオフになっていますので、使う場合は、以下の手順で有効化してください。

<設定方法>

- [スタート]ボタンを右クリックし、[設定]をクリック
- [システム]>[マルチタスク]をクリック
- 「タイトルバー ウィンドウのシェイク」を[オン]に変更

Windowsの標準機能を活用して仕事を快適にこなしましょう！

SNSのフォローも是非お願いします♪



X



Instagram



Youtube



Facebook

i SHARE 2026/01

あとがき－Editor's Note

新年あけましておめでとうございます。2026年になりました。最近「〇〇年問題」がよく話題になりますが、2026年もあるようで…その1つがAIです。データを学習し尽くしてしまい、上質なデータが不足して進化がストップするのか…！今では大量のデータが溢れていますが、かつて私が経験した「2000年問題」の時からすると異次元の世界です。当時は西暦年の上2桁さえケチって設計されていたので、2000年に「99」から「00」になった途端に計算できなくなってパニックに…！そうならないように、数年前から計算ロジックやデータ設計の変更に追われました。今では動画データも軽々扱えますが、保存領域には限りがあるので、今年もお客様の環境で不足が起きないようしっかりチェックしていきます！さらに、「2027年問題」では蛍光灯の製造・輸入禁止も控えているようです。照明器具の交換が必要になるかもしれません…！今年のうちにチェック・交換して明るい年にしましょう！本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

編集：脇 真理子

発行元

株式会社インフィニティ

株式会社インブループ

代表取締役 大畠祐貴

〒460-0002

愛知県名古屋市中区丸の内3-17-29
丸の内iaビル 7F

052-228-0417

support@infinity-i.co.jp

<https://www.infinity-i.co.jp>